

第32期目録委員会記録 No.10

第10回委員会

日時：2010年2月20日（土）14時～16時30分

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：原井委員長、東、木下、酒見、鴫田、平田、古川、横山、渡邊

<事務局>磯部

[配付資料]

1. [IFLA目録分科会ISBDレビュー・グループ会合（2010年2月4-6日）議事録]の
プリントアウト（4ページ-A4、渡邊委員）
2. 目録の作成と提供に関する調査（4ページ-A4、木下委員、酒見委員）
3. 過去の目録委員会記録に見る NCR新版に向けての検討（抜粋）
（4ページ-A4、古川委員）
4. NCRの評価項目と評価手法について（2ページ-A4、平田委員）
5. 第32期目録委員会記録 No.7（7ページ-A4、事務局）
6. 第32期目録委員会記録 No.9（修正案）（3ページ-A4、事務局）

[報告事項ほか]

1. 議事録の確認

第7回記録への修正を反映したもの（資料5）と第9回記録修正案（資料6）を確認した。

2. ISBD統合版について

渡邊委員から、2月の会合結果として資料1が紹介された。会合の主な結論は、タイトルに”Consolidated edition”を含めること、逐次刊行物の重要な変化を判断する際にはCJK言語等の特性を考慮するよう条文を改めたこと、エリア4にLegal Depositの日付を記録できるようにしたこと、エリア6の名称を変更しシリーズだけでなくセットものも対象であることを明確にしたことなどである。また、次回会合の議題として、ISBDで非刊行物を扱うかどうか、書誌記述には典拠管理関連の情報をどの程度含めるべきかなどが挙げられている。

なお、3月以降に予定されているワールドワイドレビューについて、当委員会としては日本語部分の最終チェック等を行う必要があることを確認した。

3. 付録4の誤植訂正について

横山委員から、NCRの付録4「無著者名古典・聖典統一標目表」の誤植訂正作業に着手した旨の報告があった。訂正は、次回増刷時に反映する予定である。

4. 「我国を代表する書誌データの一元化」について

原井委員長から、2月9日付で日本図書館協会ウェブサイトに掲載された標記声明については、委員会への事前連絡等はなかったとの報告があった。これに対して、委員会の活動内容にも関係する問題であり、委員会としても情報を把握しておく必要がある旨の指摘があった。

[検討事項]

1. 目録に関する調査について

酒見委員から、前回委員会での意見を反映して修正した調査シート案（資料2）について説明があり、さらに内容の見直しを行った。全体構成に対する意見は次のとおり。

- ・最初に目録作成業務全般を問い、提供に関する共通設問のあとで、OPAC、カード・冊子体目録の設問に分岐する構成は、これで良いと思う。
- ・問1-1で「1 目録作成業務は行っていない」を選択した場合、問5以降に回答することになっているが、問7、8への回答は不要ではないか。
- ・関連して、問6直前の枠内の説明との関係が錯綜している。
- ・枠内の説明のうち、1行目、3行目は不要。2行目も表現を改めたほうが良い。
- ・問7-1で「2 作成していない」を選択した場合、問9以降に回答するよう誘導する。

以上の指摘を踏まえ、構成を微調整することになった。また、表記等、形式面での統一について、次のような指摘があった。

- ・問3-2の「設問」は、「選択肢」に修正。
- ・問4-1の選択肢1と2とで異なっている読点は、読点ありに統一。
- ・問6直前の枠内の2行目「いずれかのみ」は、「いずれかにのみ」に修正。
- ・問6-7ほかでは「など」、問6-8ほかでは「等」となっており、どちらかに要統一。
- ・「…」で省略している箇所（問6-8の選択肢8）も同様。
- ・問9、10が「提供」「作成」の順のままだが、「作成と提供」とすべき。「作成および（または）提供」とするのの一法である。
- ・問10の「システムや業務の拡大、変更」は、新たに開発・開始する場合もたずねるため、対応した表現とする。
- ・設問と選択肢が同じ（アラビア数字）なのは紛らわしい。

以上を反映し、レイアウトを整えた案を次回委員会で審議・決定し、公共図書館、大学図書館関係者に事前レビューしてもらうこととした。

2. NCRの改訂方針について

古川委員から資料3について説明があり、既に5年以上前から全体改訂の検討は行われていたこと、しかし当時は第2、3、13章の改訂が急務であったため検討が中断したことが示された。関連して、次のような意見交換が行われた。

- ・資料にあるとおり、大学図書館と公共図書館とでは目録に必要とされる機能レベルが異なると思われる。目録委員会に公共図書館から委員が出る意味はそこにある。
- ・永田委員長（当時）の資料に頻出する「フラット」には複数の意味がある。一つは親書誌 - 子書誌のような階層関係に対するもの、もう一つのより重要な意味は当初のDublin Coreのようなシンプルな構造と比べMARCが複雑な構造となっていることに対するものである。RDFは、MARCとは違う意味で複雑な構造になっている。
- ・当時の資料ではGoogle Scholarが注目されていたが、Google以外にもサーチエンジンの会社が学術情報に関心を持っている。以前から指摘されているとおり、論文情報等の重要性はさらに高まっている。
- ・前回委員会の資料5（NCR改訂の方向性について（検討メモ））のうち、1(5) 「非基本記入方式の継続」は、要件とすることで委員間に合意があるとは言えないと考える。同メモ内の2(4) で「非基本記入方式を継続」するか否かが論点とされている点からも、「非基本記入方式の継続」は要件から削除したほうが良い。

以上を基に、原井委員長が「NCR改訂の方向性について」を改訂することになった。

次いで、平田委員から資料4について説明があった。主な意見は次のとおり。

- ・NCR改訂の検討と評価は並行して行うことで良い。
- ・他の目録規則の目的だけでなく、ICPやISBDの目的も分析してはどうか。
- ・目的だけでなく、構成も調べるべきである。
- ・目的の分析、文献調査は今から着手できる。
- ・第三者評価のうちアンケート調査は実施せず、今年実施する調査で判明することを流用する。インタビュー調査は、後日検討する。

以上を受け、他の目録規則等の目的の分析は平田委員、鶴田委員が、文献調査は古川委員が担当し、作業を進めることになった。

なお、報告事項3に関連して、統一タイトルの今後の扱いについて、次のような意見交換が行われた。

- ・統一タイトルはどの程度使われているか。NCRに付録4を載せる意義はあるか。
- ・そもそも、統一タイトル標目を付録4に拠っている図書館はどれほどあるか。
- ・NIIでは、音楽作品を中心として統一書名典拠レコードが数万件ある。
- ・NII、国文学研究資料館、音楽図書館協議会等における扱いを確認する必要がある。
- ・統一タイトルの検討は、基本記入方式との関係にも及ぶものである。

次回以降の委員会の予定

3月20日（土）

4月17日（土）

5月22日（土）

以上